河崎早春の朗読ワークショップ

「日本語は音色が大切。文章のメロディーを奏でましょう」

9月9日（火）　14時～16時

参加費　3000円

終了後に質疑応答の時間を取ります。

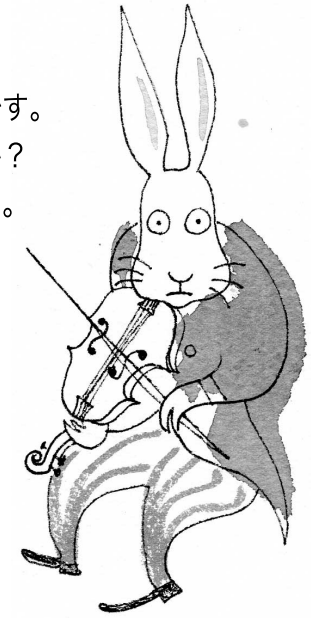
会場
東京ウィメンズプラザ →
（詳細は受付時にご確認ください）

あなたの朗読、頭でっかちになっていませんか？　日本語がいかに他の国の言葉と違うか、日本語ならではの音色について考えてみます。日本人だけが持っている絶対音感ならぬ「絶対語感」。なぜか最近これを上手に使えていない人が多いのです。今回は朗読をなさる方だけでなく、朗読を聴く方にも、いえ、日本語を話す方にとってぜひ体験していただきたいワークショップです。

文章には音楽のように旋律やリズムがあります。ところが細かいところに拘るあまり、全体から醸し出す音楽が聞こえなくなってしまうのです。頭でっかちになったり、感情に頼ったりすると、出てくるのはわざとらしい表現ばかり。そして、音楽の聞こえない朗読は聞いていると疲れます。言葉が音楽を紡ぎ出すと、面白いように朗読も生き生きしてきますよ。

「明るく読んで」「もっと軽く」なんて言われたらどうしますか？「明るくするなら、笑えばいいの？高い声を出せばいいの？」いいえ、そんなことではありません。言葉は人によって捉え方が違うもの。高低、緩急、強弱などは頭でコントロールできるけれど、頭では制御できないのが音色（ねいろ）です。音色を変化させるには、イメージを体で感じるしかないのです。頭で想像したつもりでも、身体が反応しなければイメージしたことにはなりません。
頭優先から、身体で感じる朗読に…　　「え…こんなやり方で朗読するの？」
そんな具体的で目から鱗のワークショップ。体と声が自由に変化していくのを実際に体感してください。

硬い音、柔らかい音、安定した音、不安定な音、軽い音、重い音、暗い音、明るい音、ホッとする音、緊張感のある音…実は日本語だけに特化した表現方法がこの「音色」なのです。
でもなぜかみんな使えていない！そんな様々な声の音色を自由に操ってみたくありませんか？
何を読んでも同じになってしまう。　　変えているつもりなのに、変化しないと言われる。
そんなあなたに、何かのヒントを与えてくれるワークショップです。



指導　河崎早春（かわさき　さはる）俳優、朗読家

朗読の仕事を初めて46年。
第1回ギィ・フォワシィ短編劇コンクール優勝。
枠にとらわれず、自由な発想で朗読を展開。
青山学院大学日本文学科理事。

お申し込み・お問合せ　　＜NPO日本朗読文化協会＞TEL 03-6435-8355
npo-rodoku@rodoku.org
HP　http://www.rodoku.org/　　〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6　第一白川ビル3階　B-2